

# 統合後の職員疎通をめざした 先手・先手の安全活動の展開について

## 三陸北部森林管理署

豊間根森林事務所森林官

山田森林事務所森林官

○三浦 友敬

三浦 幸仁

### 1 はじめに

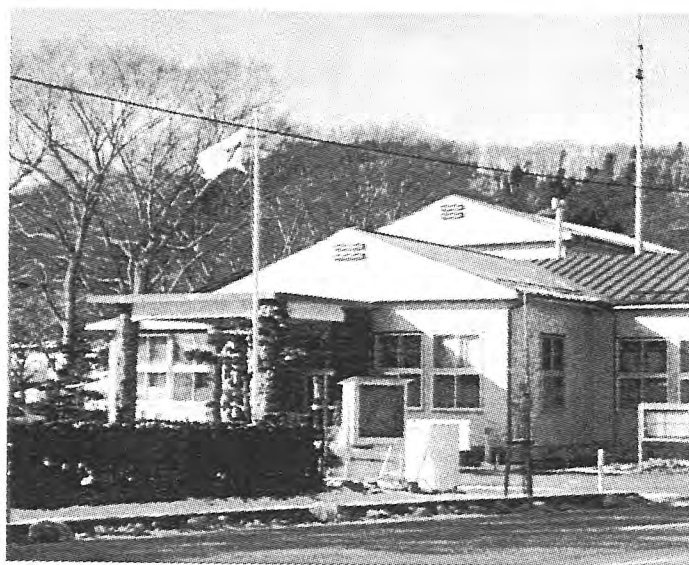
三陸北部森林管理署は、平成11年3月に旧宮古営林署を改組して発足した。

また、平成13年8月1日には暫定組織であった岩泉事務所を統合し、1市3町2村を管轄区域とする4万1千ヘクタールの国有林を管理経営し現在に至っております。

現場組織についても6森林事務所を抱えることとなり、統合後の業務運営はもとより、職員の安全活動についてもそれぞれの職員に大きな不安ととまどいがあったことも事実であります。



「写真は庁舎正面であります」



## 2 課題をとりあげた背景

統合後の円滑な業務運営推進にとって、まず足元からの一体感を確立するため、災害の未然防止に向け、一体的指導の必要性を痛感した。

真の安全活動展開のためには、指導する側と指導される側の心の疎通が根底にあり、職員に可能な限りの情報提供と、現場作業には自覚と責任を持たせるため、先手・先手の安全活動に取り組んだものであります。

「写真は現場作業の状況です。」



(作業現場はいつでもどこでも行動災害の危険いっぱいです。)



「写真は本日作業中の看板です。」



「写真は境界測量中の森林官です。」

### 3 課題設定前の考察

なぜ労働災害は減少しないのか（問題点）

1 つは、安全管理上の問題点として

- ・指導の工夫に欠けているのではないか
- ・指導者の資質に問題はないか

2 つは、作業者の労働意欲上の問題点として

- ・モラルがない
- ・作業者の資質に問題はないか

3 つは、国有林の作業環境上の問題点が挙げられます。

次に、災害の発生要因に対する対策が機能しているかどうかであります。

1 つは、指導者側の立場として

- ・自らの研鑽、熱意、わかりやすい指導となっているかどうか

2 つは、作業者側の立場として

- ア 楽に仕事をしたい
- イ 人から注意されるのは嫌い
- ウ 短時間で終わりたい
- エ 面倒くさい
- オ 自信過剰となつてはいないか



災害は物と人との接触によって起きる現象であり、物の不安全状態、人の不安全行動が引き起こすものであり、通常的安全指導は、どちらかといえば一方通行の感があることから、作業者自身が自ら危険を感じ、危険から自分を守る努力をしているかどうか大きな疑問があったことから、作業者が自ら考え、行動する材料としての「安全広報」を随時提供し、見せる、読ませる、考えさせる安全指導が必要と判断しました。

本来の安全活動とは、みんなが望んでいるものを理解し、それを踏まえて良好な関係をつくり、そうした関係を長く続けるために、リターナブルな関係を繰り返し・繰り返し行うことこそが、長く安全活動を継続する上での基本であると認識した。

そこで当署としては、今こそ効果的な安全活動実践のため、作業者に直接考えさせ、自発的に受け止めてくれる手法として、「目で見える安全広報」発行を柱として、職員間の疎通に心がけた安全活動を展開することとしたものであります。

「目で見える安全広報」はマンガカットを中心として、

- (1) 適時・適切に
- (2) 必要な指導メニューを
- (3) わかりやすく
- (4) 全職員に同じ情報で
- (5) できるだけ早く
- (6) 繰り返し提供する

ことを基本にしつつ循環型の安全指導を考察したものであります。

## 4 課題への取組み結果

具体的には、現場が自発的に行動する取組として、次の4点をキーワードとして取り組むこととしました。

### 1つ目は、現場からの衛星携帯電話、無線の随時交信の定着化であります。

当署は、平成14年12月8日無災害継続3000日を達成し、現在も継続しておりますが、緊急時の通報訓練のほかに、随時、現場から自発的に交信させることにより、署と現場間の会話が日常的となり、統合後の作業班の一体感醸成に効果的となっております。

「写真は現場からの衛星携帯電話送信状況です。」



「写真は本署での無線受信状況です。」

### 2つ目は、従来型の会議方式を改め、柔軟メニューを取り入れました

これまでの「安全管理者等会議」「安全推進員会議」等は、どちらかといえばトップダウン方式の会議となり、作業者が自発的に発言する機会は殆ど皆無の状態であった。

当署は、このような会議方向を見直し、印象度の濃い、記憶に残る会議とするため、会議当日は何らかのアクションメニューを取り入れることとしました。

具体的には、当日の会議と併行して外部講師の派遣などによって、全職員参加の下に共通的話題を提供して一体感をめざしました。

具体的に紹介しますと

「写真は宮古市体育指導員によるストレッチ体操の実演です。」



「写真は専門講師による安全講話です。」



「写真は保健師による体脂肪測定であります。」



### 3つ目は、上下・接近作業の自主的排除のための一工夫であります。

過去の災害事例は、上下・接近作業による重大災害の発生が極めて高いこと、作業に夢中になることにより、知らず知らずのうちに接近し、災害につながる恐れがあることから、作業者自身の意識発揚のため、「反射チョツキ」を導入した結果、お互いの位置確認に多大な効果あることが証明されました。

作業者自身が、お互いの位置を遠距離でも視認できることから、適正な作業位置の確認が容易になったこと、特に狩猟時期での危険防止等現場作業班に大好評でありました。

「写真は反射チョッキを着用しての作業班です。」



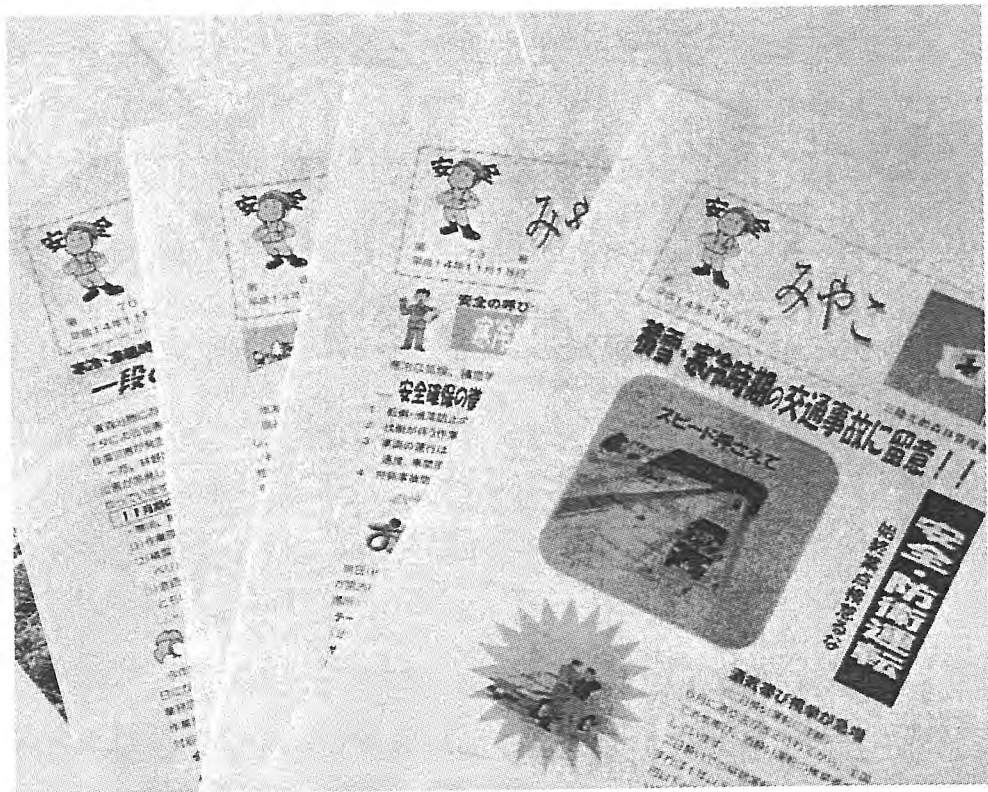
「狩猟事故防止にも役立つ（発砲禁止看板です。）」



#### 4つ目は、読んで自覚し行動させるための、「目で見える安全広報」の発行であります。

署におけるこれまでの安全指導は、指導通達、作業基準等に基づき、繰り返し指導してきているが、指導される側も指導する側も、マンネリ的スタンスとなるため、余り記憶に残らず、その効果は大いに疑問でありました。

したがって、できるだけ自ら受け止めてくれる安全活動こそ必要と判断し、できるだけ見せる、読ませる、考えさせるため、「目で見える安全広報」を発行し、統合後の森林管理署作業班を一体的に導くことといたしました。



「目で見える安全広報」の発行は、マンガカットを中心として、1枚ペーパーでA4版カラー印刷とし、週2回の発行を努力目標に取り組んだ結果、平成14年4月1日第一号をスタートさせ、同年12月27日をもって発行回数82号を達成することができました。記事・内容については、適時・適切に日替わりメニューとし、

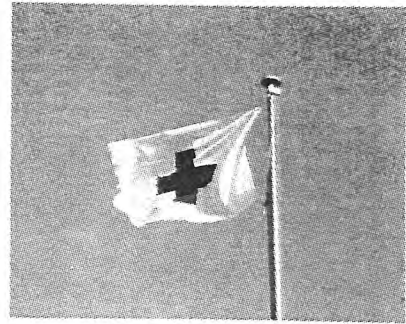
(1) 災害情報 (2) 指導通達関係 (3) 安全留意事項 (4) 健康管理関係 (5) 安全標語 (6) 交通事故防止関係 (7) 各班の交流記事、など多彩なメニューを掲載することによって、読まれる安全広報をめざし取り組みました。

以下、写真で安全広報を紹介します。





# みやこ



第 80 号  
平成14年12月16日

三陸北部森林管理署

年末年始「安全の呼びかけ」

## ゼロ災で1年締めて

## 新たな年も無災害



慌ただしく年末年始に入ります。

年末年始の時期は、寒さや降雪等によって作業条件も一段と厳しくなります。

この時期は、気象条件の変化に加え、帰省等による交通量も増加し、交通事故の危険度も増します。

気持ちを緩めることなくしっかりと基本動作を守って安全に！！

**除伐Ⅱ類作業**の実施に当たっては、

1 伐倒に係る事前除去の徹底

伐倒する木の周囲の状況を確認、枝からみ、蔓からみ、落下の恐れある枯れ枝・冠雪など、よく見極めて

2 足元を十分確保してから作業着手

3 かかり木が生じないよう周囲の状況を見極め、伐倒方向・手順を決定すること



忙しい年の瀬



忘年会・新年会と飲酒の機会が多い季節  
くれぐれも食べ過ぎ・飲み過ぎに注意



### 当面行事から

12日：安全講話(宮古国生協)  
(署長)

17日：分収育林現地検査

24日：活性化協議会現地視察  
(本波調整官)

27日：年末安全指導  
(署長ほか)

## 5 研究の成果

見せて、読ませて、考えさせ、行動させるこれらの安全活動は、職員の自発的参画を狙った手法であり、特段大きな安全対策とはいえないが、統合後の職員が、まず安全関係で一体となってきたことが大きな成果であると感じております。

特に「安全広報」については、マンガカットを取り入れ、週2回の発行としたことから、現場では「わかりやすい」「親しみやすい」「マンガが楽しみ」とした意見が多く、今では安全懇談会に活用されるなど、職員間の効果的コミュニケーションの場となっています。

「写真は安全広報に目を通す作業班です。」



## 6 考察

統合後の森林管理署として、円滑な事業実行と災害防止への取組みは、極めて大事なポイントであります。

現在、当署では3000日以上にわたり無災害を継続しているが、「歴史は繰り返される」と言います。いつかは、災害が発生します。

しかし、繰り返される災害発生の原因は、(1)時間の経過とともに薄れていく事実(2)しっかりとした分析がなされていないこと(3)情報不足であることから、人のケガがみんなのために反映されていない、等が考えられます。

この繰り返される災害を未然に防ぐには、一人一人が自分のこととして、強い意識を持ち続けることが極めて重要であると考えます。

そのための情報をできるだけ多く、タイミング良く提供し、作業者が自覚し、考え、行動する環境づくりのため、今後とも職員間の疎通を基本としつつ、統合後の森林管理署の一体感をめざし「終わりなき安全活動」を展開して参りたいと考えております。



以上、三陸北部森林管理署の取組み経過等について、私、森林官が代表して報告するとともに、今後とも、署の安全活動の意義を理解し、引き続き現場末端から災害を出さない、出させないための創意工夫した安全活動を展開していきたいと考えています。